

● 大会主題

新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

● 副主題

～ふるさとの地から世界を見つめ 新しい社会の形成に向けて
挑戦する子どもを育てる学校経営の推進～

● 副主題設定の理由

全国連合小学校長会は、真摯に研究と実践を積み重ねるとともに、我が国の初等教育の充実・発展と教育諸条件の整備に多くの成果を収めてきた。そして、新たな時代の要請に応える教育の推進のために、平成25年度三重大会からは、「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を大会主題に掲げ、その実現を目指して取り組んでいるところである。そこには、教育の役割と変化する時代の潮流や近未来的な課題を踏まえ、様々な分野で、豊かな創造性やしなやかな知性を発揮し、互いの個性や絆を大切に作る社会づくりに貢献できる日本人を育成したいという願いが込められている。

近年、我が国は、知識基盤社会や情報化・グローバル化の進展とともに、少子高齢化が急激に進む中、生産年齢人口の急激な減少などの深刻な問題を抱えている。また、地域社会のつながり・支え合いの希薄化、家庭の孤立化などが、学校の抱える課題を複雑化・多様化させている。一方、教育改革は未来を見据えて急速に展開しており、新しい時代の要請に応える学校教育の在り方と方策が盛り込まれた新学習指導要領の全面実施に向けた取組が着実に進んでいる。

北の大地「北海道」の冬は、雪に覆われ、長く厳しい寒さに包まれる。開拓時代、この自然環境は人々に多くの困難をもたらした。しかし今では、冷涼な気候を利用して安全安心な食材を豊富に産出する日本最大の食糧基地となり、雪を活用した観光やスポーツが魅力となっている。そして、青函トンネルを走る北海道新幹線が、それらの魅力を求める多くの観光客を運び、ますます発展を遂げようとしている。先人たちの知恵と工夫と挑戦が、この厳しい困難を改善し、現代に恩恵をもたらしたのである。

変化が激しく将来の予測が難しい時代にあって、子どもたちが高い志や意欲をもつ自立した人間として育つためには、北海道の先人たちのように、他者と協働しながら新たな価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が必要である。そのためには、生きて働く知識を含む、これからの時代に求められる資質・能力を学校教育で育成するとともに、学校と地域が両輪となり、教育課程を介して子どもを育てる協働関係が構築されなければならない。子どもたちは、生活の場である地域社会において、多様な人々との様々な体験活動を通して、共生の意識や地域に貢献しようとする意識を高め、未来の創り手としての素地を自らつくっていく。また、地域の多様な人々とのふれ合いは、ふるさとの文化についての理解を深め、同時にグローバル化の中で、異文化理解を深めた国際社会への関心を高めていくと考える。

今後どのような時代にあっても、自立した個人が個性・能力を生かし、相手の価値を尊重し、多様な人々との協働を通じ新たな価値を創造していくことができる柔軟な社会の実現が求められている。こうした新しい社会の形成に向けてたくましく挑戦する子どもを育てるためには、人と人との絆をつくり支え合う共生の意識や夢と希望に満ちた活気溢れるふるさとづくりに積極的に貢献しようとする意識など、社会の形成者としての意識を醸成することが必要である。また、環境・資源・エネルギー問題などに関するグローバルな視点を持ち、多様な人々と協働して、地域の環境・経済・少子高齢化・地域格差などの身近な課題についての解決策を考えようとする資質が求められる。さらに、一人一人の個性と人と人との絆を大切にしながら、自然災害からの復興などに粘り強く取り組むことができるたくましさや育むことが大切となってくる。こうした願いや意図を実現していくには、子ども一人一人の能力を伸ばし、来るべき社会の形成者として必要とされる基本的な資質・能力を育む学校経営を推進していくことが必要となる。

以上のことを踏まえ、第70回全国連合小学校長会研究協議会北海道大会は、これまでの研究の成果と課題を受け継ぎ、大会主題の更なる追究を目指すため、副主題を「ふるさとの地から世界を見つめ 新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」と設定し、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性を究明しようとするものである。

